

しょうせつ だろろ かわ ぶたい ち
 小説「泥の河」舞台の地

(所在地) 西区土佐堀三丁目 湊橋南西詰

【碑文】(右側)

「泥の河」文学碑建立
 協賛者芳名
 企業・団体 個人協賛
 (略)



小説「泥の河」は宮本輝のデビュー作。一九七八年第十三回太宰治賞を受賞。

その後、一九八一年に小栗康平監督により自主制作の形で映画化された。河つぶちの食堂に住む少年と対岸に繋がれた舟に暮らす姉弟との短い交友を描いた。実際のロケは名古屋市の中川運河で行われた。主演は田村高廣、藤田弓子、殿山泰司他。

【碑文】

小説「泥の河」舞台の地

堂島川と土佐堀川がひとつになり安治川と名を変えて大阪湾の一角に注ぎ込んでいく、その川と川のまじわるところに三つの橋が架かっていた。昭和橋と端建蔵橋それに船津橋である。

「あそこや。あの橋の下の…ほれ、あの舟や」
 目を凝らすと湊橋の下に確かに一艘の船が繋がれている。だが、信雄の目にはそれは橋げたに絡みついた活物のようにも映った。

「あの舟や」
 「…ふうん、舟に住んでんのん？」
 「そや、もつと上におったんのやけど、きのうあそこに引越してきたんや」

宮本輝「泥の河」の一節より